

AI時代の教育—意志ある学び プロジェクト学習
～インテリジェント化で知の共有・知の成果をかなえる～

AI時代の教育—意志ある学び プロジェクト学習 ～インテリジェント化で知の共有・知の成果をかなえる～

鈴木 敏恵 シンクタンク未来教育ビジョン代表・一級建築士

資料B



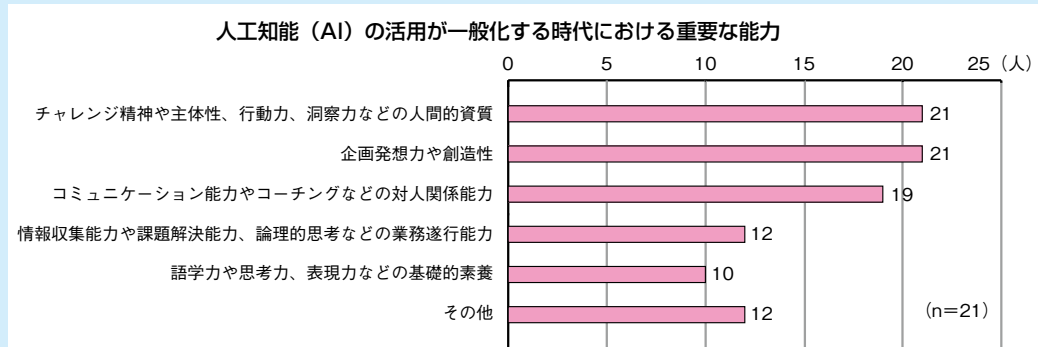
▲アンカレッジの子に太鼓を教える子矢部村の子



AI時代の教育－意志ある学び プロジェクト学習 ～インテリジェント化で知の共有・知の成果をかなえる～

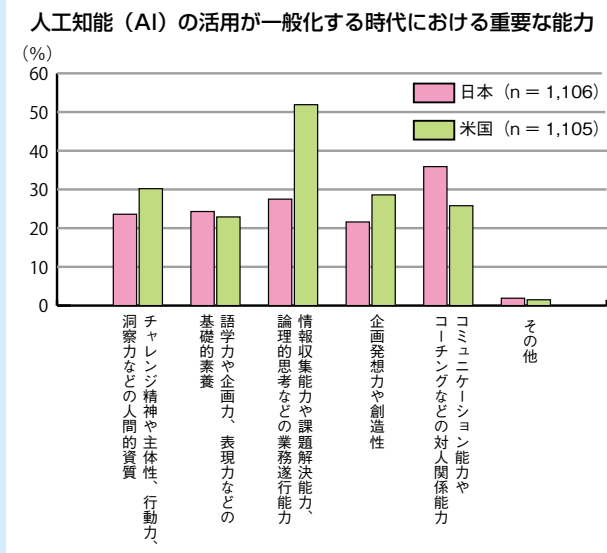
AI（人工知能）の活用が一般化する時代における重要な能力

人工知能（AI）の活用が一般化する時代に求められる能力として、特に重要だと考えるものは何かを有識者に対して尋ねたところ、「業務遂行能力」や「基礎的素養」よりも、「チャレンジ精神や主体性、行動力、洞察力などの人間的資質」や「企画発想力や創造性」を挙げる人が多かった。



日米の就労者に対しても同様に、人工知能（AI）の活用が一般化する時代に求められる能力として、特に重要だと考えるものは何かを尋ねた。米国の就労者は「情報収集能力や課題解決能力、論理的思考などの業務遂行能力」が求められると回答した人が51.9%と圧倒的に多い。一方、日本の就労者は「コミュニケーション能力やコーチングなどの対人関係能力」が求められると回答した人が35.9%といちばん多くなった。

日本と米国では業務遂行上求められることが異なっており、自身を持つスキルとマッチしているタスクを完遂することが第一目標である米国に対して、日本ではスキルの有無に関わらず多様なタスクを遂行することが求められる。その差が米国では「業務遂行能力」を重視しているが、日本では「対人関係能力」を重視しているという違いとして現れている可能性がある。

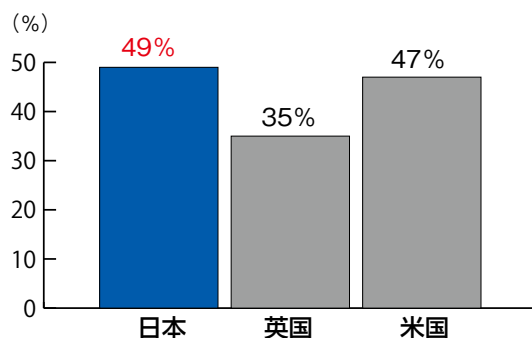


出典：総務省「ICTの進歩が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」（平成 28 年）

総務省「平成 28 年度 情報通信白書 第 1 部 特集 IoT・ビッグデータ・AI～ネットワークとデータが創造する新たな価値～」第 4 章第 3 節より

人工知能やロボット等による代替可能性が高い労働人口の割合 (日本、英国、米国の比較)

10～20年後に、日本の労働人口の約49%が、技術的には人工知能やロボット等により代替できるようになる可能性が高いとの推計結果が出ている。



※日本データは国内 601 種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算。

※日本データは、株式会社村総研と英オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授及びカール・ベネディクト・フレイ博士との共同研究（2015 年）
米国データは、オズボーン准教授とフレイ博士の共著「The Future of Employment」（2013 年）
英国データは、オズボーン准教授、フレイ博士、デトロイト・マツソン・コンサルティング社による報告結果（2014 年）から採っている。

(資料) 2015 年 12 月 2 日株式会社野村総合研究所 News Release

日本の教育は成功していると言えるのか？

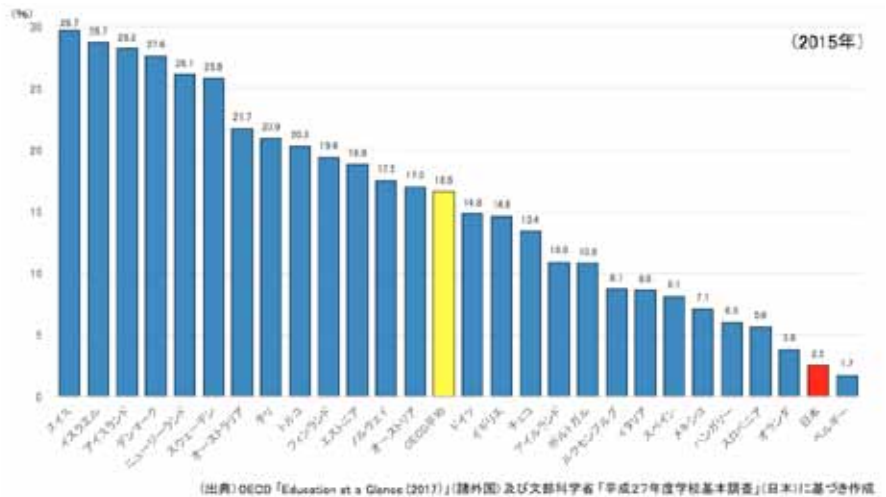
視点1 「自ら学び続ける人」になったのか？

25歳以上の短期高等教育機関への
入学者の割合（2014）



OECDのデータ。25歳以上の社会人が、短期高等教育機関へ入学する割合。OECD諸国中で最下位。

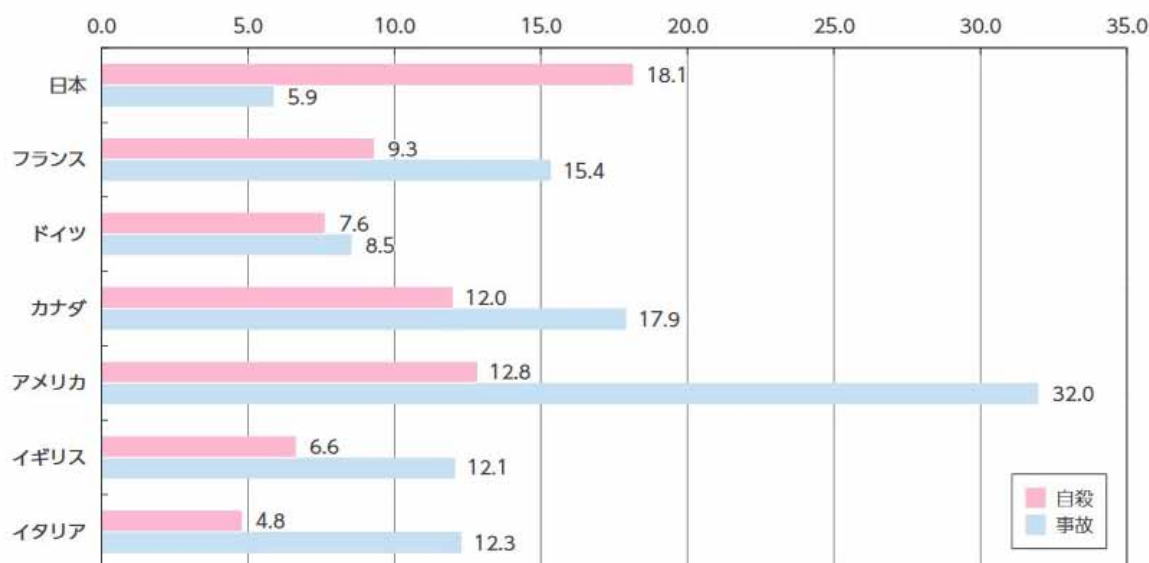
高等教育機関への25歳以上の入学者の割合



高等教育機関（4年制大学）への25歳以上の入学者割合を見ると、日本は他国と比較して、割合が低い。

視点2 「生きる力」は得たのか？

日本の自殺率



注意：「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

資料：世界保健機関資料、総務省統計局「世界の統計2015」、カナダ統計局「2011 Census of Canada」より厚生労働省自殺対策推進室作成

AI時代の教育－意志ある学び プロジェクト学習 ～インテリジェント化で知の共有・知の成果をかなえる～

視点3 シアワセ感はどうなのか？

各国の幸福度 (2018年)



幸福度ランキングは、一人当たりの国内総生産 (GDP: 濃紫)、社会的支援 (Social Support: 赤色)、健康寿命: healthy life expectancy: 橙色)、社会的自由 (freedom to make life choices: 黄緑)、寛容さ (Generosity: 緑色)、汚職の無さ・頻度 (Perceptions of corruption: 青色)、ディストピア+残余値 (Dystopia (1.85) + Residual: 薄紫) を分析して積算しています。

出典: 世界幸福度報告書 2018

視点4 男性も女性も伸びやかに自分を 活かせる社会へ向かいつつあるか

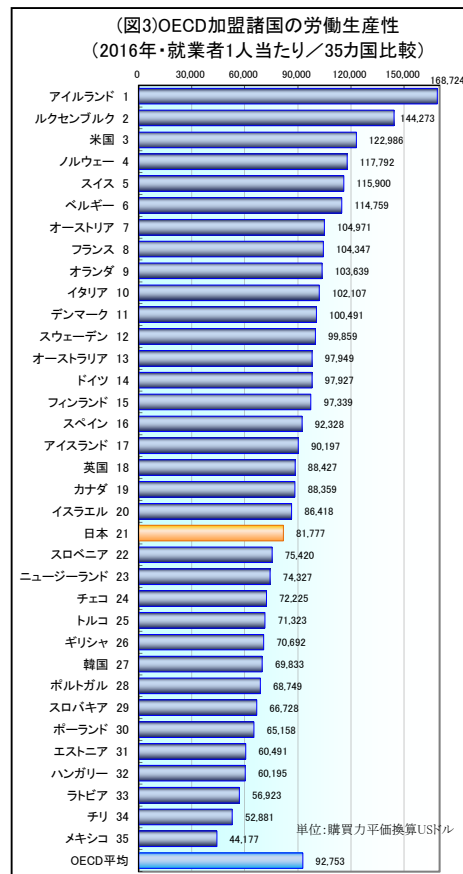
男女平等ランキング 2017

1	アイスランド	11	フランス
2	ノルウェー	12	ドイツ
3	フィンランド	15	イギリス
4	ルワンダ	49	アメリカ
5	スウェーデン	71	ロシア
6	ニカラグア	82	イタリア
7	スロヴェニア	100	中国
8	アイスランド	114	日本
9	ニュージーランド	118	韓国
10	フィリピン	144	イエメン

出典: The Global Gender Gap Report 2017

視点5 生産性／何かを生みあげる力は 身についたのか？

日本の低い労働生産性 (どのくらいのモノやサービスを生み出したかを示す指標)



OECD 加盟 35 カ国中 20 位。データを取得している 1970 年以降、G7 の中で最下位の状況が続いている。

出典: 日本生産性本部「産業別労働生産性水準の国際比較」

2017年4月24日
第3221号 for Nurses

発行(毎週月曜日発行)
購読料1部100円(税込)1年5000円(税込、税込)
発行元株式会社医学書院
〒113-8271 東京都文京区本郷1-28-23
TEL (03) 3817-5694 FAX (03) 3815-7850
E-mail: shinhun@igaku-shoin.co.jp
©2017 医学書院 発行 印刷 委託印刷

New Medical World Weekly

週刊 医学界新聞

医学書院 www.igaku-shoin.co.jp

今週号の主な内容

- 医師国家試験合格発表表……………1面
- 連載「看護のアナウンサー」……………2面
- 「インタビュー」AI時代の看護教育(鈴木敏恵)……………3面
- 連載「院内研修の作り方・考え方(新)」……………4面
- 「美学」こそが組織における重要な課題(青原雅子)……………5面
- 「奇蹟」「死にゆく患者とどう話すか」と突きつけられたあの日から……………6面

2017年4月24日(月曜日) (3面)

AI時代の看護教育

「意志ある学び」を実現するために

interview 鈴木敏恵氏(シンクタンク未来教育ビジョン代表)に聞く

「AIに奪われる仕事」が話題になる中、教育の分野は「知識を与えるだけの教育」から「知識を与えない教育」へと転換している。看護教育もアクティブラーニングをはじめ、能動的な学習方法が積極的に取り入れられつつある。その学びを実践でさらに生かすために、教員は学習者をどのように教え導けばよいのだろうか。本紙では、オリジナリティあふれる教育手法を長年発信し続ける鈴木敏恵氏に、自ら学ぶ力をつけるための教育と、これからの看護教育がめざすべきビジョンについて聞いた。

—先生はこれまで、看護教育へのアクティブラーニング導入など、従来の教育手法からの転換を訴えてきました。どのような背景があるのでしょうか。
鈴木 AI(人工知能)時代が到来しようとしている今、正解が決まっているもの、意味がわからなくてもできてしまう仕事はAIに取って代わられてしまいます。AIが持ち得ない能力を高めるため、学習者に一方的に知識を教えるだけの教育から、学習者主体の学びへと転換する必要があります。

—高度な認知能力によって状況判断できるAIの登場で、看護の現場はどのような変化が起こると予想しますか。
鈴木 例えば、病棟のさまざまなモノがIoT化され、看護師が獲得する情報がAIネットワークと結ばれれば、患者がベッドに寝ている間のバイタルサインなど、あらゆる情報をアセスメントできるようになります。安定していた昨日までは違う何らかの兆候や危険因子も、画像認識でとらえアラーム機能で知らせてくれるでしょう。

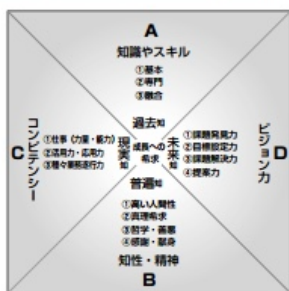
将来的には、AIが測定データと電子カルテ情報を複合して基本的な看護計画や治療方針の策定、さらには退院後、地域の社会資源活用プランを提示するなど、仕事内容が劇的に変わることは間違いありません。

重視すべきは「センシング力」と「課題解決力」

—では、AI時代に身につけるべき能力はどのようなものですか？

鈴木 次世代教育に求められる修得知として私が提言してきたA～Dの4つ領域です(図1)。Aの「知識やスキル」が大切であることは間違いありませんが、これはAIが得意とするところで、社会の進化であつという間に陳腐化する可能性があります。一方で、何が起るかわからない現実世界の不確実性には、AIは弱いんです。

そこで、Cの「コンピテンシー」、Bの「知性・精神」、Dの「ビジョン力」を身につけることが大切です。特にこれからの未来を描く力であるDが重要です。ありたい像(ビジョン)があることで現実とのギャップに気が付き、



●図1 未来教育—4つの修得知モデル(「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する」より)

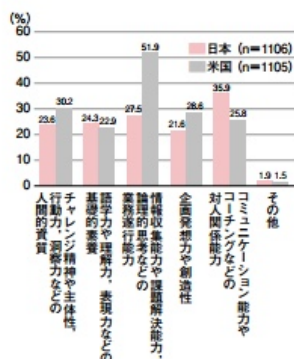
課題解決力が身につきます。
—指導者が教えるに当たり、意識すべき点がありますか。

鈴木 「人間にしかできないことは何か」、「教育で何を提供すればよいか」の二つを考えることです。前者はDの「ビジョン力」です。AIは、人間のように自ら未来を描くことはできません。看護師は、患者さんへの励ましや優しさ、言葉やタッチングの手のひらで伝え、退院後の患者さんが「こうあったらいいな」とQOLを尊重しながらビジョンとゴールを描けます。

後者は、「課題発見、解決力」に必須の「センシング力」です。総務省は2016年、日本の就労者が考える「AIの活用が一般化する時代における重要な能力」を調査しました(図2)。米国の就労者は「情報収集能力」「課題解決能力」を特に意識しています。業務の完遂を第一に求められる米国ならではの事情が反映されていますが、看護師の「資質」とも重なります。

—AIが活用される中、人間にさらに求められる能力と言えそうです。

鈴木 はい。センシング力で目の前の状況を把握することができなければ、どんな能力やスキルも発揮することはできません。学生や新人看護師に知識があっても、現場で力を発揮できないとの声をしばしば聞きます。教育現場にセンシング力を教える場面が少なく、学習者も身につけていないからです。机上のペーパーベースの授業や学内演習ではなく、現実の場でしか修得



●図2 人工知能(AI)の活用が一般化する時代における重要な能力¹⁾

できない力なのです。

意志ある学びをかなえるビジョンの力

—先生は「アクティブラーニングをこえた教育」を提言しています。具体的な内容を教えてください。

鈴木 アクティブラーニングは手段であつて目的ではありません。めざすのは、その先のアクティブシンキングです。アクティブとは「主体的」の他に「敏活」の意味もあります。アクティブになるためには「何のために」「何をやり遂げたいのか」という目的と目標が必要で、主体的とは単に「自分から動く」のではなく、センシング力を発揮して目の前の課題を発見し、情報を獲得して解決へと向かうことです。

その過程で得た情報や、思考、判断を客観的に見る「メタ認知」によって自覚的に成長することができます。その有効な手法が「次世代プロジェクト学習(Project Based Learning)」(以下、プロジェクト学習)という、ポートフォリオ、対話、コーチングを融合させて私が構想したものです。

「未来がこうなったらいいな」と思うことってありますよね。その「ありたい姿」を学習者が描ければ、自身の課題に気づき、解決や実現に向けて進んでいくことができるのです。

—「意志ある学び」を理念とする、プロジェクト学習の広がりが期待されます。

鈴木 そうです。取り入れることで、学生のモチベーションがグンと上がります。導入校からは、看護師国家試験の結果が飛躍的に向上したと、この4月もうれしい知らせが届いています。



●すずき・とし恵氏
シンクタンク未来教育ビジョン代表、教育クリエイター、一級建築士。日赤秋田看護大学院非常勤講師。教育界、医学界など専門領域におけるアドバイザーとして、プロジェクト手法やポートフォリオ評価、次世代教育構想コンサルタントを行う。大学FD構想、新人研修、指導者育成、キャリアデザインを目的とする人材育成などを全国で実施。「看護師の実践力と課題解決力を実現する！—ポートフォリオとプロジェクト学習」[アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する—与えられた学びから意志ある学びへ] (いずれも医学書院) など著書多数。

学生が「看護師になりたい！」というビジョンを強く胸に持ったからだ、先生方が教えてくれました。

—より高度なアクティブラーニングとも言えるプロジェクト学習を、教員は、どこから始めればよいでしょう。
鈴木 学習者がビジョンとゴールを考えるとところからです。プロジェクト学習の出発点となる「ゴールシート」(註)を用い、めざすゴールを記入したら、ポートフォリオの1ページ目に入れます。リフレクションとリフレーミングの「2つのR」も大切ですね。振り返りだけでなく、違った見方をすることで発想が広がっていく。その思考過程がポートフォリオで見えますから、課題発見から解決に至る一連のプロセスが明らかになります。「患者さんによくなくていい」、そのビジョンを胸に学び続ける人に育ってほしいですね。

—技術革新が進む時代、看護教育が進むべき新しい方向性となりそうです。
鈴木 はい。AI時代の将来、自ら課題を発見して解決に向かうとする看護師は、ますます求められます。

この世界は「知の果樹園」です。リングに気付ける人、取りたいと思っている人にとっては、その環境が無限に広がっている。研修や授業だけが学ぶ場ではありません。与えられた学びから意志ある学びへと自分で成長させられる人を育てる。それが、私たちのめざす教育のゴールだと信じています。(了)

註：医学書院ウェブサイトからダウンロード可
http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=86192

●参考文献

- 1) 総務省。ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究。2016。

次世代教育モデルとしての「看護教育」の特徴

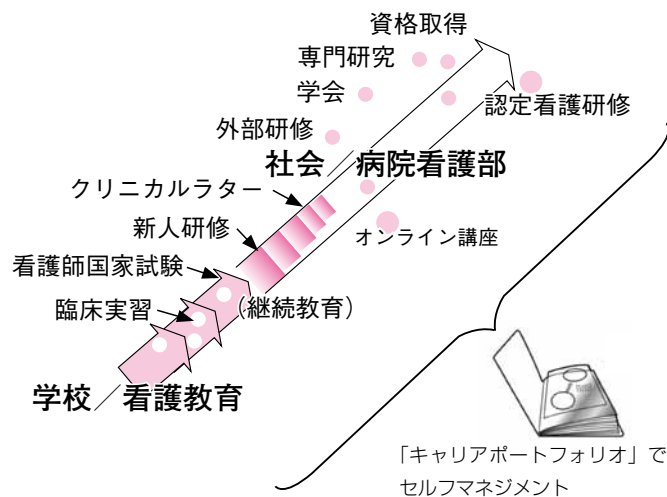
AI時代に求められる能力＝看護師の資質

AI時代に求められる能力、情報収集能力、課題発見力、解決力、高度なコミュニケーションによる対人関係能力、多職種における高度なチームワークなどは「看護師の資質」とも言えます。

次世代エデュケーション[8NEモデル]

AI時代の教育モデルのヒントが現在の看護教育の8つのユニークで優れた文化＝[8NE（ナーシングエデュケーション）モデル]（次世代の教育モデルとなり得る、看護教育の特徴を筆者が名付けたもの）にあります。

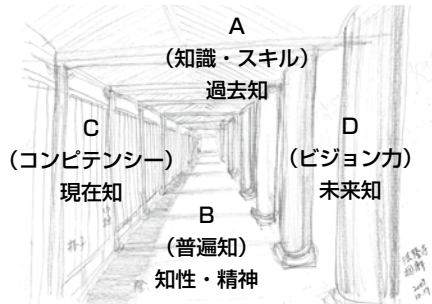
看護は最も高度な「ひとコンピテンシー（＝人間と直接関わりその生命の維持存続や成長を目的とする実践知）」を求められる職種と言えるでしょう。その思考、判断、行動のすべてにエビデンスを求められますが、同時にテキスト化、データ化できない暗黙知の修得がかなりの比重を占めます。ゆえに在学中は臨床実習を平衡的に取り入れています。さらに学校教育だけではその修得は未完とされ、就業した後、継続的に学び続ける文化をもちます。



次世代教育モデルとしての「看護教育」の特徴

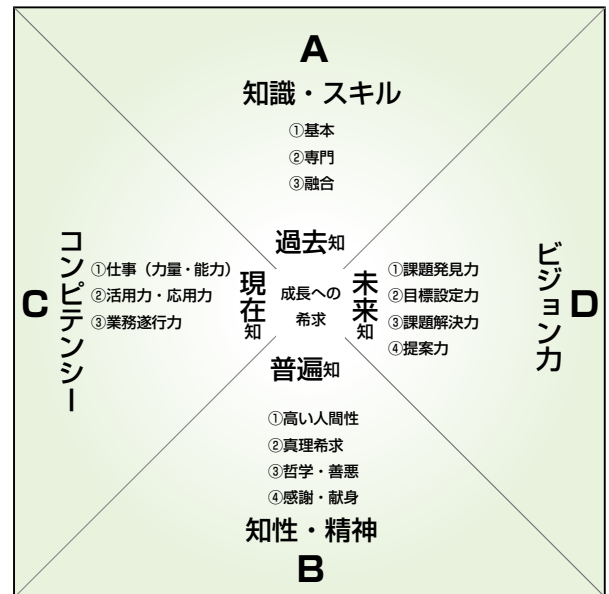
- ① 多様なセンシング（状況把握）能力、アセスメント能力の獲得に力を入れている。
- ② 患者の安全・安楽・尊厳を原理原則としエビデンスに基づく思考・判断・行動の重視。
- ③ リフレクションとリフレーミングをその文化とする。
- ④ 多くの病院では、継続教育：クリニカルラダー（実践能力開発プログラム）を備えている。
- ⑤ 在学中は臨床実習に大きな比重で時間確保している。
- ⑥ 患者を中心に医師、看護師、薬剤師、理学療法士など多様な職種で取り組む。看護もチームワーク体制。
- ⑦ 充実した新人育成の体制、プリセプター制度など（＝新人につく3～4年目の先輩）。
- ⑧ 自ら知識やスキルを“アップデート”する文化（患者の存在が動機）。

次世代教育— 4つの修得知モデル



4つの修得知モデルの設計思想の元になった法隆寺の廻廊
 (筆者：スケッチ)

次世代教育—4つの修得知モデル



ひとりの人間としての「成長ツリー」

第Ⅴ—伝承期
 自らの知を他者へ伝える
 貢献ステージ

第Ⅳ—表現期
 プロとして社会参加する
 ステージ

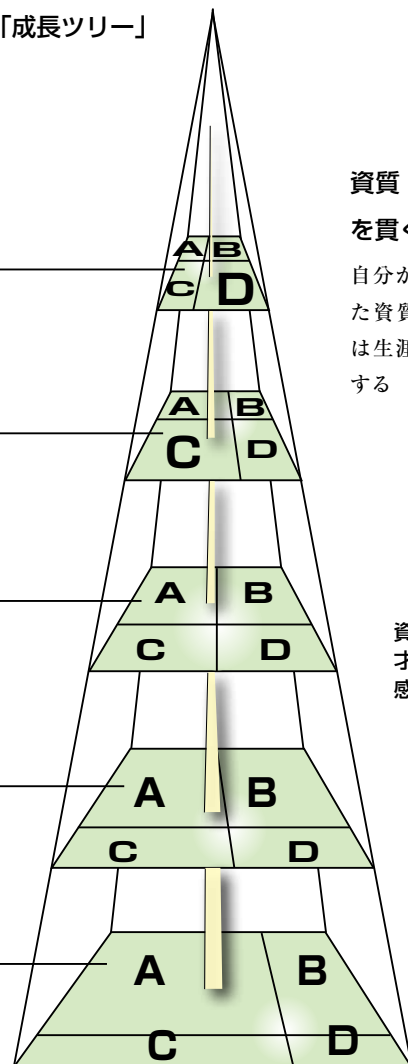
第Ⅲ—吸収期
 対象をどん欲に修得する
 ステージ

第Ⅱ—関心期
 大学・専門学校・高校

第Ⅰ—発芽期
 幼小中学校

資質・才能は生涯を貫く
 自分が持って生まれた資質、才能、感性は生涯を貫き大切に
 する

資質
 才能
 感性



ひとコンピテンシー

AIではたせない

ひとコンピテンシーとは、人間と直接関わり、その成長や健康・生命の存続などを目的とする実践知、目の前の現実に対座し、ビジョン力(D)を持って、全人格的(B)に立ち向かう仕事(看護師や教師など)に高い成果を上げる力量、能力(筆者が生み出した表現)。AIではかなわない人間ならではのふるまい。



新しい時代—求められる「創造的な思考」

与えられた学び → 意志ある学び

構想設計 鈴木敏恵



これまでの教育

- ① 教師が学習者へ知識や情報を与える
- ② 知識やスキルの習得
- ③ 指導／ティーチング
- ④ 正解がひとつしかない／模範解答
- ⑤ 一斉授業、均等な進度
- ⑥ 部分知：教科間の関連性が少ない
- ⑦ 学習空間は教室（クローズ）

これまでの評価（結果）



点数・査定

ペーパーテスト

新しい教育

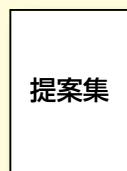
- ① 学習者自ら知識や情報を獲得する—自己学習・情報共有
- ② 創造的思考／コンピテンシー（応用力・実践知）の修得
- ③ 対話・セルフコーチング
- ④ 正解なき教育／課題発見・解決力／試行錯誤
- ⑤ 個別進度／資質、個性、才知を高める教育
- ⑥ クロスカリキュラム／全体知／俯瞰
- ⑦ 学習空間は、現実（オープン）地域・社会・ネット・世界

評価とは価値を見出すこと

アウトカム（成果）



ポートフォリオ



提案集

クオリティ
アイデア

高校

特別支援学校

埼玉県立常盤高校・看護科1年生 プロジェクト学習

地震時、大切な人をどう守るの？

平成26年度からスーパーハイパープロジェクト推進モデルハイスクール(SPH)に指定されている埼玉県立常盤高校(森一夫校長、生徒394人)が1日、看護科1年生による公開プレゼンテーション「生涯学び続ける力の育成に取り組んでいる」

最適な避難方法を提案
実証データで具体的根拠を示し

常盤高校は埼玉県で2階の音楽室から唯一の県立看護師養成80歳、腰のヘルニアで高校で、生徒全員が卒つえをついている女性業後、人の命を救う看と一緒に避難する方法護分野の職に就くことを提案。プレゼンターを指して日々の学習 ションではまず、複数を取り組んでいる。この避難経路と移動手段の目行われたプレゼンの中から最も適切なとーションのテーマは「地震が起きた時『大切な人』を守りながら明。さらに、彼女を安行動できる校内場所別の心させるための声掛けの避難を提案しますの内容や姿勢、おんぶ！」。同校の文化祭で突然地震が発生したこシャージャーの結び方をとを想定して、校内ロールプレイイングでのさまざまな場所から実演した。

来場者を安全に避難させるための方法をグループごとに提案した。自分たちで課題設定
例えば、あるグループは足首を捻挫した同級

思考・判断・行動力育む



生。講義室にある黒板 控部分を固定する心息消しとガムテープで捻挫部分と避難の方法、さ

自信となったようだ。入学前からのプロジェクト学習を楽しみに行っていたという中川理緒さんは「この学習を通して、自分の身近にその状態の同級生を連れて避難するのにかかる時間と距離を、実際に自分たちで検証を行ったって算出した。その人にとってできないことが、自分がその人たちの気持ちをたくさん考え、調べ、体験のメンに位置付け、このような学習の姿勢思考力・判断力・行動力の育成に取り組んでいる。スーパーバイザに迎えたのは、プロジェクト学習の第一人者で内閣府の中央防災会議専門委員も務めた鈴木敏恵氏。生徒たちは、彼女の指導を受けながら入学直後からわずか3カ月でグループから研究発表までやり遂げる。当日のプレゼンテーションの完成度の高さは、観覧に訪れた保護者や関係者を驚かせただけでなく、生徒自身にとっても今後の学習活動につながる大きな校内にある身近なものを工夫を紹介し、実演する生徒たち

「生涯学び続ける力の育成に取り組んでいる」

・8152・5711
常盤高校 048

AI時代の教育—意志ある学び プロジェクト学習 ～インテリジェント化で知の共有・知の成果をかなえる～

朝日新聞（高知）2017年12月

太陽光発電 浸水負けぬ

四国4県で900人以上が亡くなった1946年12月の昭和南海地震で、約1カ月間の長期浸水に見舞われた高知市・下知地区の小学校に、太陽光発電と蓄電池を組み合わせた「ソーラー充電スタンド」が設置された。南海トラフ地震などの際、避難住民らのスマートフォンなどの充電に役立ててもらおう考えた。

大津波に備える

シャープが12月上旬に発売した発電効率の高い太陽電池パネルを備えた製品。商業施設などへの販売を想定して開発された。希望小売価格98万円（税別）。今回設置された販売第1号

高知・下知地区 昭和小



①ソーラー充電スタンドを児童たちに紹介する鈴木敏恵さん（奥左）
②バッテリーを外しても約1000mAhあるソーラー充電スタンドを校舎4階まで運び上げる下知地区の住民たち（いずれも高知市日の出町の昭和小）



横浜・建築士寄贈「スマホ充電に」

は、内閣府の中央防災会議で災害避難の専門委員も務めた横浜市の一級建築士・鈴木敏恵さんが購入。6年前に防災学習を行った高知市立昭和小学校（同市日の出町）に寄贈した。

昭和小で8日に行われた児童と住民の合同防災訓練で、設置前の製品をお披露目。鈴木さんとシャープの担当者が「フル充電状態でスマホ120台の充電が可能」「LED照明も点灯できる」など機能を紹介した。

その後、約45kgのバッテリーを外しても100kg以上ある本体を、地元の消防団員が校舎4階の空き教室を利用した防災倉庫まで運び上げた。鈴木さんは「下知地区は全国でも特に南海トラフ地震による長期浸水の危険性が高い地域。地域の防災活動もしっかりしているので寄贈を決めた。日頃の訓練でも使ってもらい、全国の学校に設置が広がれば」と話した。

下知地区減災連絡会の坂本茂雄事務局長は「避難時の情報確保に役立つ装置でありありがたい。被災前の人とのつながりが『受援力』につながることを改めて感じた」と話している。

（長田豊）

地震に備え太陽光充電機

元中防会議委員 昭和小（高知市）に寄贈

南海トラフ地震に備え、国の中央防災会議

の元専門委員でシンクによる長期浸水が想定タスク「未来教育レジ」されており、鈴木さん「代表の鈴木敏恵は「命を守る情報を得るために電源は必須」と日、携帯電話の充電になる。設置が広がれば使えるソーラー充電スいい」と話している。タンドを高知市日の出 鈴木さんは、東日本町の昭和小学校に寄贈 大震災後に同小で防災講演を行った縁があ



高知新聞
2017年12月

AI時代の教育—意志ある学び プロジェクト学習
 ~インテリジェント化で知の共有・知の成果をかなえる~

クラスメートは人型ロボ

小学生の学び
AI活用探る

木次小(雲南)で実験スタート



指示を受けて踊るロボホンに見入る木次小学校の児童ら—雲南市木次町木次、同校

雲南市木次町木次の木次小学校児童数193人とシンクタンク未来教育ビジョン(鶴岡市)が、AI(人工知能)を教育現場に生かすための実証実験を始めた。学習支援や会話ができる人型ロボット「ロボホン」が来年7月まで同校に貸し出され、教科や課外学習などで活用。児童の思考力や表現力向上の効果や、授業への活用方法をまとめる。(引野道生)

ロボホンはシャープが開発した。高さ1.5メートル、重量約10キロ。ロボホンの顔は、カメラで周囲の状況を捉え、音声認識で児童の発言を聞き、AIの学習機能でその発言を記憶し、適切な返答を返す。また、ロボホンは、児童の発言を聞き、AIの学習機能でその発言を記憶し、適切な返答を返す。また、ロボホンは、児童の発言を聞き、AIの学習機能でその発言を記憶し、適切な返答を返す。

18日、雲南市木次町木次、同校。児童らとロボホン。19日

土知G... 雲南... 18日... 19日

“留学生”はロボット



ロボットに声を掛け、動く様子を確認する児童たち—18日、木次小学校体育館

木次小児童が「迎える会」

雲南

雲南の児童らに、AI(人工知能)を活用した未来教育の実証実験が始まる。木次小学校の児童が、人型ロボット「ロボホン」に声を掛け、動く様子を確認する。ロボホンは、児童の発言を聞き、AIの学習機能でその発言を記憶し、適切な返答を返す。また、ロボホンは、児童の発言を聞き、AIの学習機能でその発言を記憶し、適切な返答を返す。



平成29年(2017) 12月19日